

- 議 長 受付番号第4号、小澤啓司君の一般質問を許します。登壇願います。
- 8 番 小 澤 続いて、一般質問をさせていただきます。受付番号第4号、質問議員8番小澤啓司。件名、小田原・南足柄両市の合併問題を問う。
- 2017年1月24日、第3回任意協議会が開催され、今後の協議を行うために、編入合併方式と2020年度中の合併方針が承認をされました。松田町の将来設計にも大きな影響が予想されますので、次のことについて質問をいたします。
- (1) この合併の流れをどのように受けとめていますか。
- (2) 上郡5町の情報交換や意思疎通は図られていますか。
- 以上です。
- 町 長 それでは、小澤議員の御質問にお答えをさせていただきます。
- これまで、報道等で御存じのように小田原市・南足柄市2市による「中心市のあり方」に関する任意協議会が計4回開催されておりまして、1月24日の開催の第3回会議におきましては、最優先協議事項の合併方式について南足柄市域を小田原市に編入し、その時期を2020年、平成32年度中という想定が承認をされているということでございます。ただ、合併の是非につきましては、全ての協議が終わった後にメリット・デメリットを検証して判断するというところで、現時点では仮の想定であると聞いております。
- 御質問のこの合併の流れをどのように受けとめているかということですが、小田原市・南足柄市の2市での合併協議は、あくまでも2市の協議ではありますが、現在2市を含む広域連携で運営している足柄上衛生組合、足柄上地区ごみ処理広域化、斎場事務広域化などなど、そのほかにも広域連携している多くの事業があり、負担金などへの影響は発生することになるかというふうに考えておりますが、松田町の町政運営の、それによって姿勢がこれによって大きく変わるというふうには考えていません。今後も2市を注視しながら、松田町において必要な事業を行い、冷静に対応していくことが肝要であるというふうにも考えております。ただ、2市の動きを対岸の火事というような感覚でいるつもりはございませんので、近隣町との連携強化のあり方について議論することは大いに有意義であり、これらの議論の上では、住民側の機運というものもなければ成り立たないというふうにも考えております。今後も、広域

連携に向けた取り組みについては、調査・研究をしていきたいというふうにも考えております。

次に、上郡5町の情報交換または意思の疎通は図られているかという御質問についてでございます。足柄上郡5町では、小田原市・南足柄市2市の「中心市のあり方」に関する任意協議会の発足にあわせて、足柄上郡町村会等において県西地域の広域連携など圏域のあり方について、小田原市・南足柄市の協議結果を待つのではなくて、広域連携のあり方について調査・研究を行う副町長を中心とした広域担当課長会議の場を設け、協議を進めているところもございます。

繰り返しになりますが、2市を含む広域連携で運営している足柄上衛生組合、足柄上地区ごみ処理広域化、斎場事務広域化など、そのほかにも広域連携している事業が多くありますので、結果次第にはなりますが、今後の町政運営にも費用負担増などの影響が出ることは予想しています。

過日、開催されました神奈川県西部広域行政協議会の中でも、上郡5町として2市の協議が終了する前に、広域連携についても情報提供や連携に関する協議の場を設けていただくように申し入れたところもございます。

昨年年第1回定例会での御質問にもお答えさせていただきましたが、私といたしましては、2市の連携中枢都市圏に向けた動向に注意しながら、まず松田町としての考え方について、平成20年に検討されました合併論議の内容に沿った松田町の10年後の推移と現在の状況を比較調査・研究を行い、未来に向け必要な対応をすることが大切だというふうにも考えております。あわせて、足柄上郡で圏域のあり方などについてしっかり議論し、共通理解と共通認識のもとで中心市に対する連携都市としての共同歩調で連携強化が可能になればというふうにも考えております。2市の動向を見きわめつつ、必要な判断をしたいというふうにも考えております。それは、上郡5町にとっても同様の考えであると思いますが、日が経過するに当たり、状況も変化することもあるかというふうにも思っておりますので、その都度、確認・調整を図ってまいりたいというふうにも思っています。

また、これを機に、広域連携事務といたしまして、税務事務や水道事務の共

有化、消耗品の共同調達、共通事務のアウトソーシングなど、事務の効率化を図るための検討も進めているとこでもございます。以上でございます。

8 番 小 澤 今回のこの南と小田原の合併についてね、やはり任意協議会の中で合併の方式と、それからいつまでということが決まって、私もこれに傍聴に行ってきました。もう少し南足柄のほうからですね、いろいろと意見が出されるのかなと思っていたところ、すんなりと決まってしまったというのが行ったときの感じだったんですね。ただ、南の加藤市長のほうから、先ほど町長言われましたように、これはシミュレーションするための仮の前提条件で決めたんであって、合併云々については、この任意協議会が終わった後で市民の意見を聞いた中で、そこで判断をしていくよということはかなり強く言われていた。もう一つ、残念だったのは、任意協議会のほうに南の市議員がたしか4名ほど出ていられて、その前にですね、南の市議員のほうとしては、要するに対等合併でいきましょうというような意見調整がされていたのにもかかわらず、任意協議会では、任意協議会がもし編入合併でよければ、それに従いますよと言って、そういう発言をされた。この辺のところを聞きましてね、ちょっと南足柄、何かまとまってないなという感じも、特に南の議員さんの中で賛成派の方、あるいは対等合併でいこうと言う人、いや反対だと言う人がどうも何か割れているような感じも受けて、南の加藤市長の発言としては、当然の発言かなとは思っておりますけども、この辺で南としても小田原との合併に対して前向きに進んでいこうよというところがちょっと見られない部分もある。だけど、小田原市としては、粛々と合併に向けての場をこなしている。こんな感じを受けるわけですけども、この辺につきましてね、どうですか、副町長、一番よくその辺を実感としてわかっていられる部分があるのかなと思いますけれども、今現在、話のできる中で結構ですから、南足柄さんはどんな状況になってるのか。言える範囲で結構ですから、どうですか。

副 町 長 今、私ども副町長が中心になって行っているのは、あくまでも5町でのですね、話し合いでありまして、その場にですね、南足柄市が出席しているわけではございません。その5町での会議の場ではですね、その小田原市さん、南足柄市さんが今の現状がこのようになっているという報告を受けた中でですね、

あくまでも5町としてどうやって連携してくんだ、それに対してどういう今5町で動きをしていくんだ、ということに専念しておりますので、南足柄さんの今の雰囲気はどうとか、小田原市さんの雰囲気がどうというような意見交換等はですね、今のところしてはございません。ですので、今、私がここで感想と言われても、ちょっとその辺は難しいかなというふうに思います。以上です。

8 番 小 澤 無理なお願いをしました。ただ、今回のね、2市の合併の話し合いの中で漏れ聞くところによりますと、大井町さん、一緒にどうとかいう話も聞いています。大井の町長さん、断ったよと言ってますけれども、当然これは開成町にもそういった意向打診というようなものが水面下であったのではないかと予想はされるんですけども。それ以前に、やはり南足柄、開成町で一緒になろうよというような話も水面下であったようにも聞いています。そういう意味でですね、今やはり小田原と南の話になっていきますけれども、こういう中に例えば大井町さん、開成町さん、一緒にやりましょうよ、こういう流れが出てきてもおかしくはないんですよ。やはり財政的にもですね、開成・大井、健全財政を誇ってます。小田原市としてみれば、それこそ、ぜひ一緒に来てもらいたい、こういう気持ちがあるかと思えますけれども、ただ松田・山北になりますと、ちょっと財政的に厳しい部分がある。これも聞いても答え出ないでしょうけれども、そういった水面下の働きかけは、松田町にも何かしらあったんでしょうか。

町 長 水面下の話をどういうふうについていう話ですけど、まず水面下の話はまず基本的にないですね。ないです。うちのほうに小田原さんとか、南足柄とか、開成からそういう話はどうだっということとは基本的にはないです。スタンス的に開成さんのほうが財政的にいいっていうお話もありましたけど、開成さんは人口がふえて、いろいろやられておりますからね。どっちかといえば、連携をもっと強化していこうよというようなお話はいただいたりします。大井の間宮町長も、地続きでいろんな面で強化をしていこうよという話もいただいているということで、3町が1つにまとまろうとかっていうようなことというよりも、まずは連携強化をしていこうよといったところでの、今、副町長さんたちの協議を今進めているというところでございます。以上です。

8 番 小 澤 答えられないことを聞いて、大変すいませんでした。ただ、今、町長言われた開成町、大井町との連携を強化していこうよって、これ将来に向けて非常に大事なことなんで、これはこの後またちょっと質問しますけれども。

今、この小田原・南の合併の中で、やはり小田原市が何としても中核市になって、そして国が進めている連携中枢都市圏構想というものを、その流れに乗っていこうと、こういうようなことが、それを前提とした中での動きだろうと思っておりますけれども、ここです、やはり大きな問題になってくるのが、もし、小田原・南が合併の方向で、例えば実現ができるとすると、今度その周辺自治体、今までの2市8町の中でいろいろな形の広域連携をやってこられた。これがですね、新しい市との間で、こういった広域連携の協議の枠組みというものがある、どうなっていくのか。あるいは、そういう何ていうんですか、会議の中にこの上郡の5町が入っていけるのか。あるいはそうじゃなくて、新しい市で決まったことを今度、各それぞれの自治体と個別に交渉して決まっていくのか、その辺はどういうようなとらえ方になりますか。

町 長 今のところ、話を聞き及んでるところであります、2市が合併した、たればの話をするのも物すごく恐縮な話ですけれどもね、そうなったときには周辺の自治体と連携中枢都市圏構想を結びながら、この圏域の強化をしていきたいというふうなのは、小田原の加藤市長のほうのいろんなお話の中で聞き及んでるところでございますので、それ以上のことは特別なことというふうに思っております。ですから、あくまでもそれは合併をされたときの話としてですね。ですから単独で、一本釣りをしながらやっていくかどうかというのも、これからの話じゃなかろうかというふうに思っております。ただ、松田町の財政のこと、将来のこと、いろいろ考えれば考えるほどですね、さまざまな地域と連携をしながら相乗効果をしていかなきゃいけないというのは頭の中にもございますし、そういった先ほどちょっと答弁させていただきましたけれども、町民の方々、いろんなさまざまな方々の調整も必要になってきますし、今のところは今やっている連携や事務的なこと等々の、何ですかね、ある意味まだ事務レベル的な調整をしてるというようなことであるということだけ御理解いただければと思います。以上です。

8 番 小 澤 一番恐れているのがね、やはり今までは1市4町、1市5町でいろいろな話し合いをして取り組みをしてきたものが、今度その新しい市との間で、例えば新しい市、今そういった細かいところも全部詰めをやってますけれども、こういうように決まったから、これで松田町とやってくださいというような、そういうようなことを押しつけられてくる可能性っていうのは、かなり高いと思うんですよ。上消防が小田原消防と一緒にあって、何かあったら議会で言ってくださいって言ってますけれども、どうもこういうように決まったから、これでいきますという、そういう報告だけになっている。そういう可能性がね、ますます強くなってくる心配があるんで、だから個々との、新しい市と個々の自治体との話じゃなくて、やはり例えば上郡5町との、そして新しい市との話し合いを進めていく。そういうような形がとれないとね、なかなか我々の言いたいことが、あるいはやってもらいたいことが通りにくくなる恐れがある。心配がある。そこが一番気になる場所なんです。ですから、その辺はですね、これからの、もし、たればの話になっちゃっていけませんけども、そうなったときには、十分注意をされて、そこはやっていただきたいというように思っています。

それから、上郡5町の話し合いはされているのか、意思疎通ができていのかということ、これは首長会議よりも、やはり副町長を中心としたナンバー2の話し合いのほうのが、もうちょっと何ていうんでしょう、腹を割った話ができているのかなというように感じていますけれども、今現在はですね、その合併の進みぐあいを見ながらということでしょうけれども、その辺の現状についてお話しできるところで結構ですから、いかがでしょうか。

副 町 長 今、足柄上郡5町でですね、副町長並びに広域担当課長会議というのが第3回開いております。その中で今、中間報告的なことをまとめております。これ3つ、大きく3つに分けておまして、まずは2市、南・小田原市を含めてですね、活用、今、共同処理制度への影響の検証と対応の検討といったことで、主にですね、足柄上の衛生組合、それとごみ処理の広域化、それと斎場事務、この3つが大きく挙げられております。これにつきましてはですね、各町ので、担当課長を中心に今話し合いをしていただいてですね、現状の把握、ま

た今後ですね、施設の更新等も含めた中でですね、どのような対応をしていけばいいかというのを今話し合っている最中でございます。

それと、政策的な発展とですね、事務の効率化ということで、5町がどういう連携を組んでいけばいいのかという部分でも、今話し合っております。その中でですね、まず政策的な発展の部分といたしましてはですね、ちょっと細かい項目を挙げてみますと、広域の観光化、あと定住促進、それと防災対策等の問題、あと交通ネットワークの形成、この辺はですね、発展的なものがあるだろうと、5町でやっていたら1町でやるよりも発展的なものが考えられるだろうということで、今これもですね、担当課の課長さんをですね、中心に話し合ってくださいということで、今指示をさせていただいております。

それと並行しまして、事務の効率化ということもでございます。先ほどからですね、答弁させていただいてますが、税務徴収等の事務の共同化、あと水道事業ですね、共同化、この辺をですね、細かくやはり担当課長を中心に話し合ってくださいということで今検討中でございます。

そのような3つの大きな点からですね、今5町がですね、現状把握と今後どうあるべきかと、どのような連携を強化していくのが最善かということをお話し合っている最中でございます。

これが今の28年12月までのですね、中間報告ということでまとめてあります。以上です。

8 番 小 澤 今、副町長、大変重要な発言をされまして、確かに今言われたようなことをですね、私は合併がどう転んでもね、やっぱり5町の中でそういうような話し合いがされて、事務の効率化だとか、あるいはそういった政策的な部分で、そして共有ができるようなものはやはり合併抜きにして、どんどん進めていかれたらどうかなっていうのはありますね。特に観光事業につきましては、各町観光協会ありますけれども、やっぱり足柄平野も1つの観光拠点ですから、そういった観光協会を一本化をしていくとか、あるいは例えば商工会も、これも足柄上商工会、山北、南、この辺も一本化していくような、そういったような形もとれていくんじゃないのかなということで、ぜひね、それは進めていっていただきたいし、そして合併がだめになっても、そういった4町、5町の話し合

いの中でね、やっぱり一緒にできることはやっていく。非常に大事なことだろうと思いますので、よろしくそれはお願いいたします。

それと、またそういう会議の中で、今度は合併のほうに向けて、もし小田原と南が一緒になる、2020年に合併しますよと、もしなったときに、残された4町、5町はどうしていくのか。その後で、新しい市に個々が編入合併をされるのを見ているのか。それとも、新しくできる市との中で広域連携をしっかりと図りながら存続ができるのか。あるいはまた、上郡の4町が、4町だけで、今、副町長言われたような連携をとりながら、何ていうんですかね、地域連携っていいですかね、そういった4町の中で共同でできること、そしてそれぞれの持ち分を得ながらやっていけるような、そういう地域連携を深めていった中での、その結果が合併になるかどうかはわかりませんが、そういうような形です。やはり新しい市ができたときに、残された上郡4町はどうするのか。この辺についても、何かそういった話は出ているんですか。具体的にはいいですけれども。

副町長 今、小澤議員がおっしゃいましたように、これはもう当然ですね、現状を、そのような形になればですね、5町がその新しい中心市と連携する場合の対策・対応というのは、これは全国的にもですね、事例があるようですが、今その事例をですね、調査しております。その事例をですね、参考にしながらですね、どのような対策をとっていくのかというのは、今検討をしている段階ではございます。以上です。

8番小澤 何か副町長が非常に頼りがいのあるように見えてきましたんで、ぜひ積極的に進めていただきたいな、こういうふうに感じています。

今、そういった小田原・南の合併のそういった話し合いがある中で、やはり今までの行政組織をどうしていくかということ将来にわたって考えていくね、私は非常にいいチャンスが、機会が与えられたのかな、こういうふうに感じます。やはりこれからはですね、今までの自治体が、何ていうんですかね、自己完結型の行政運営っていうものはもう先が見えている。もう難しいよと。こういう中で、やはりごみの問題だったり、衛生の問題だとか、斎場の問題だとか、一緒にやりましょうよって動きがなっている。ですから、これからもさらにそ

ういったよその市町村との連携というものはふえていかざるを得ないわけですよ。それを今、副町長がそういうことも含めてやっていますよ、ぜひこれは強力に進めていっていただきたいなと思っています。やはりこの足柄上郡の4町ですね、それぞれ特色を持った町で、地形の変化だとか、人口だとか、あるいは財政だとか、それから観光、そして鉄道を含めた交通網、それぞれやはりその町々によって違ってるわけですから、そういうところの各町のいいところどりをしながら、そして短所はみんな埋めていく、こういうような形でですね、そういった4町、あるいは中井も含めた5町のそういった、私は地域連携という言葉を使いたいんですけれども、そういうものを深めていっていただきたい。そして、この足柄上郡の4町が自立できるような新しい自治体を模索をしてもらいたい。そういうことをお願いをしたいと思います。この4町の人口を合わせれば5万6,000、あるいは南足柄を含めれば10万以上の人口があるわけです。今、国のほうもですね、5万以上の人口があるところ、定住自立圏、そういう構想もあるようですからね、その辺も含めてですね、検討・模索をしていっていただきたい。

今、御存じのようにこういった合併の話もですね、少子高齢化が進んで、そして現役世代の人口減少が続いていく、こういう中で起きていることだろうと思っています。したがって、やはりこれから先30年、50年先のこの足柄平野がどう変わっていくのか、そういうことを議論をしていく、私は本当に大切な時期に来ていると思っています。今回の2市のこの合併劇にね、惑わされることなくですね、足柄平野の将来像をしっかりと描きながら、そしてそれがやはりここに住む、定住化で住んでいただく住民の福祉の向上につながっていくような、そういうような取り組みをしていただきたい。本当にいい機会ですから、大きな枠組みの中で、そういう気持ちで私はやっていただきたい。

時間、残ってますけれども、私それだけ言って終わりにしたいと思います。これについて、最後に副町長でも町長、どちらでも一言お願いいたします。

町長 御提案としては聞いておきますけれども、今現在はですね、5町で話をしているところでございますし、多分1つ入ってなかったのは中井さんだと思いますけれども、非常に中井さんには、この松田は大変お世話になってるところもあるんで

すよね。東部清掃組合の部分もありますし、最終処分場は中井にありますし。そういった面では、松田町はいろんなところで世話になっているところがたくさんあると思います。ですから、まずは松田町として平成20年に合併論議があったときの資料等々もありますのでね、あのときに検討されたその10年後こうなりますっていうのが間違いなくあると思いますから、そういったところと今の現状のところをやっぱり比較だとかすることは、やっぱそのときのことを無駄にしないっていうことに多分つながっていくと思うので、そういったところからやっていかなきゃいけないというふうに思います。

あとは、我々としては、やはり町民の方々が置き去りになるような議論になると、やっぱり冷ややかに、冷めて、何ていうんですかね、合併する、しない、あんまり我々に関係ありませんみたいな状態の中で話になってるから、冒頭お話をされたように何か学識者みたいなところがあるのかなというふうに思いますから、そういった、何ていうんですかね、旗印がどんと上がるというよりも、冷静に一つ一つ、松田町として10年後、20年後どうあるべきかというようなことを改めて考えさせていただいてる大切な時期だというふうに思ってますので、そういった認識の中で今後しっかりとした回答をですね、求めながら、町民の方々といろいろお話をしながら進めてまいりたいというふうに思います。

いずれにしろ、さまざまな御意見があると思います。全て私は排除せず、一つずつ丁寧にお話をいただきながら進めていくようにしてまいりたいと思います。以上です。

8 番 小 澤 今、町長のお話を聞きながら、あと1点だけ、私、言い損ないました。やはり、こういった合併の話があって、一般の町民の方がそれを耳にしている。新聞や何かで聞いて耳にして、松田はどうなるのよというような声も聞こえるわけですから、この合併の任意協議会が終わって、そして南足柄市が市民に対して意見を求めているような段階なのか、あるいは法定協議会ができてからでもいいんですけども、やはり今こんなような状況にありますよということを、町民に対してお知らせをする。これは私、大事なことだろうと思ってます。あるいは、この松田町はどう考えてるんだよということも含めて、やはり町民に対してお知らせをしていただく。そして、その辺を理解してもらうということ、

大変大事なことだろうと思いますので、何かその辺がですね、今回の合併の話
だけじゃなくて、私、本山町長にそこはぜひお願いしたい部分ですけれども、
かなりスピーディーに物事は進められているけれども、それを町民にわかるよ
うに、そういう説明の部分をですね、ぜひもう少し力を入れてやっていただき
たい。そのことをお願いして、終わりにしたいと思います。

議

長 以上で、受付番号第4号、小澤啓司君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。14時40分より再開いたします。 (14時25分)